

「これからは生涯学習の時代です」

「人間は、死ぬまで勉強だ。」ということとは、昔の人からよく聞かされた言葉ですが、文部省（生涯学習局）では臨時教育審議会の答申に基づいて、生涯学習がどうしても必要だということを明らかにし、大きく取りあげております。

今の社会は、情報化、国際化、高齢化など変化の激しい社会になっていく中で、つねに人間らしく生きたいとは誰もが願っているところであるが、よりよく生きるためには、自分に力をつけ、能力をたくわえながら、地域社会の一員として、住みよい町づくりの一端を担うことだとしております。

また、これからの世代は、充実した人生を送るためにも、生涯にわたって学び続けることが必要とされる世の中である。毎日毎日の学習を積み重ねこれを生涯にわたって続けることが自分自身を高め、ひいては住みよい町づくりを進めることにつながっているということをお知らせいたします。

以上、公民館職員研修会から要約しました。

公民館主事

船野

報告 (一)

(小松)

一、平成二年度由良地区公民館役員

(1)、運営審議会委員 (順不同・敬称略)

松本 師正 由良小学校長

山本 千秋 脇自治会長

中西 孫兵衛 宮本自治会長 (連合会長)

新宮 豊 市議会議員

川崎 利晴 浜野路自治会長

山下 栄一 港自治会長

山下 正男 下石浦自治会長

山下 伊左衛門 上石浦自治会長

藤本 秀雄 市議会議員

四方 寿朗 前公民館長

北野 薫 学識経験者

山口 正憲 小学校育友会長

榊田 輝子 中学校育友会長

中西 吉之助 婦人会長

山下 良一 老友会長

職員 子供会連絡協議会長

小松 忠衛 由良地区公民館長

船野 和雄 由良地区公民館主事

松林 威佐雄 脇分館長

枝川 隆亮 協分館長

宮本分館長

中西 孝
石角 正弘
山下 守
野村 孝行

浜野路分館長
港分館長
下石浦分館長
上石浦分館長

(3) 幹事
文化部

部長 小谷一郎
副部長 山口正憲

中村富美雄
田中正一雄
奥野彰
竹田茂

中西清治
山田訓久
岸田幸夫
大森婦美子
酒田清
木村豊

体育部

部長 岸田秀樹
副部長 中西隆光

竹内義行
矢野善紀
山田徹男

山元久紀
田中昭彦
山田輝子
千坂則子
岸田剛
榊田輝子
中西伸子
小田原昭子
榊田慎子
山下初子
中西きく代
榊田慎子

二、平成二年度 行事計画

(1) 文化部

盆踊り大会 八月十四日 (夜)
文化祭 十一月十一日
同和学习会 十一月二十日
婦人会と共催 (作品展、婦人会バザー、その他、)

● 囲碁大会 二月三日
● 自治学級 二月十日
● 宮津市政と由良づくり

● 土曜座談会 (毎月第二土曜日)
● 史跡めぐり 日時未定
● 文化財保存会 (希望事項)
● 公民館だよりの発行 年三回 七、十二、三月

(2) 体育部

● 第二十五回由良岳登山 四月二十九日 雨天 五月三日
● 市地区對抗駅伝競走大会 六月三日
● 球技大会(軟式野球・ソフトボール) 八月十四日
● 市民綱引大会 十月二十四日
● 市民駅伝競走大会 十一月四日
● 一般男女バレーボール大会 二月三日
● フィットネス スポーツ教室(市指定) 四月～三月

報 告 (三)

一、第二十五回由良岳登山 四月二十九日の早朝は、雨模様のため登山を中止し、五月三日に実施しましたが、小学校児童が五月一日

(船野)

に登つたため、参加者が少く一般の方が二十五人程でした。体育部の役員や石角分館長の引率で元気に出発、昼過ぎには全員無事下山しました。参加者が少くても予定どおり実施できたことをうれしく思います。参加されましたみなさん、大変ご苦労さんでした。そしてご協力ありがとうございました。

二、宮津市地区対抗駅伝競走大会

六月二日午後六時三十分からの開会式によつて、この大会の幕が切つて落され、『宮津市民のみなさんが加わつて、地域の連帯を深め、活力ある地域づくりに役立てたい。』との徳田市長のあいさつに対し、我が由良チームの玉垣泰子選手が『ふるさとを代表として、輝かしい未来への道を走りぬぎます。』との力強い選手宣誓は、宮津会館が割れんばかりの拍手を受けました。そして、
 いよいよ三日の本日、前回大会優勝チームも三本柱が欠け、チーム編成も困難な状態の中で、無欲で参加するのみ、唯、参加することに意義があると自分に言い聞かせながら、地区の皆様方の温いご声援を背に受けて走りつづけましたが、成績は総合で第六位と無念の涙をのみました。しかし南部コースでは一位で優勝し、やはり由良は強いという印象を与えました。以下選手の名前と成績を紹介します。

◎ チーム

監督 岸田秀樹 (公民館体育部長)

北部チーム (日ヶ谷く市体育館コース)
 山田純央 泉 昌雄 北野誠治

一井勝也 榎岡和雄 山田崇

南部チーム (由良く市体育館コース)

升田雅紀 磯田勝美 竺原永果

津田一 森田耕二 前畑つかさ

新宮鶴雄 坂下晃一 玉垣泰子

山田剛士 山下良 森田景子

○総合成績 距離、四十二・一九五キロ

時間、二時間四十二分四十四秒

南部コース 距離、二十三・一九五キロ

時間、一時間二十六分三十二秒

北部コース 距離、十九・〇キロ

時間、一時間十六分十二秒

○特別賞 (五十才以上2年連続) 北野誠治

○区間賞 竺原永果 津田一

報 告 (三)

一、寄贈・寄附

(1)、参萬円 大森 文子 殿

由良地区連絡所囑託員退職に際

してお寄せいただきました。永

い間、ご苦勞様でした。

(2)、図書 三十六冊 小西平右衛門 殿

☆ ありがとうございました。厚く御礼申しあげます。

こゝろ

由良小学校長 松本 師正

今年の四月、はからずも本校に着任し重責を荷うことになりました。十九年ぶりの校舎をなつかしく見て歩いて私を、由良の子ども達の明るい表情と元氣な挨拶が迎えてくれました。このこともたちの現在と将来のしあわせのために、できるだけの事をしなければ。と決意を新たにしております。公私ともによくお願い申し上げます。

さて、本校では「豊かな心を持ち・たくましく生きる児童の育成」を教育目標とし、作文教材を通して「もの見方 考え方を確かなものにしながら表現力を育て、自ら考えて行動できる子どもの育成を図る」を重点研究のテーマとして研鑽を重ねております。

また、小学校の学習指導要領の改訂で、小学校低学年に生活科が新設されることになりこの生活科構想は、戦後四十年間続いてきた低学年教育の改善を求めて、教科の改廃を行うというものです。従来、低学年においては社会認識や自然の認識の芽を育てることは、独立の教科である社会科と理科で行うこととしてきました。しかし、低学年児童には未分化な発達状況がみられ、また、この時期は具体的な活動を通して思考する段階にあることから、これらの教科のねらいは、児童の具体的な活動や体験に即して指導する方が有効に達成できると考えられています。そのような活動や体験を行う中で、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせることをねらいとする総

合的な新教科として生活科を設け研究を進めることになってきました。

着任以来三か月たちました。子ども達は「たくましい心と体を培う」の目標のもとに、毎朝ラジオ体操とはまの子マラソンで体をきたえております。教室では、教師と子ども達が真げんに学習にとりくみ、他校からの參觀者からも讃辞を頂きました。また、子ども達の図画作品の中には、温かさを感じさせ心豊かなものが多く見られます。無味乾燥な日常生活からはよい作品はできません。身近に恵まれた自然をもち、遊びや体験の中から感動する心を積み重ね、子ども達が感受性をみがき作品づくりに頑張った成果だと思えます。

子どもは、冷たい目やとげとげしいことばの中では心豊かに育っていきません。温かい心で接していただき親同志 又、学校ともお互に隔てなく話し合うことによつて、よりよい子ども達を育てていきたいものだと思っております。

地域を回っておりますときに、由良の方々が学校に対して強い関心を持っておられることをひしひしと感じます。校外における子ども達の生活につきましても、子どもを見守る温かい目、適切な注意、よろしくお願いしたいと思えます。このようにして「生きていく学校づくり」をしていきたいと考えております。今後とも、地域の皆様方に対してご理解とご協力をお願い申し上げます。

地区対抗駅伝を振りかえって

好天に恵まれた去る六月三日、由良チームの一人として参加させていただいた第二回宮津市地区対抗駅伝競争大会、本大会の主旨である地域の連帯を深め活力ある地域づくりにもまた、生涯スポーツに役立てる意図から、小学生から六十才の高齢者まで、まさに地域あげての大会であった。

今回、由良チームは主力選手を欠いての参加となりかたりの苦戦が予想されたが、昨年に続き南部コースの完全優勝は実力を歴然と見せつけたものであった。

また、北部コースは、強豪チームを相手に健闘はしたものの若手の力不足が現われ、おしくも八位となった。ふりかえれば、由良チームの選手全員が気持を一つにし、日曜の練習にまた、夜間の練習にと一丸となって調整を行い挑んだ大会でもあった。又、個人としても特別賞受賞者の一人として表彰を受けた事は、由良チームの方々に謝意を表しますと同時に、今後健康である限り、走ることに生きがいを持ち生涯スポーツに励む所存です。

最後になりましたが、お世話になりました役員さん、選手の皆さん本当にご苦労さまでした。

浜野路、北野 誠治

駅伝大会に出場して

玉垣 泰子

公民館長さんより、六月三日に行われる宮津市地区駅伝に、でてもらえないだろうか、依頼を受け、「私には無理です、もつと若い人に頼んで下さい」と、ことわりしましたが、「いろいろな事情が有りなかなか走ってくれる人がいないんだ選手が揃わないと由良は棄権でな事になるんだ」と、大変こまっておられる様子なので、ことわりきれず、じやなんとか走ってみますとひきうけた訳です。

さあ大変です。年齢的な事、それにマラソン駅伝と長い距離を走った経験が全く無い事完走ができるだろうか、と、ひきうけたものの心配だった。一ヶ月たらずの練習、始めの頃は、走るとゆうよりジョギングと言った感じ、二キロ走って帰ってきたら、もうグッタリ、といった状態だったが経験豊かな方達のあたたかい指導と皆など励まし合って練習の出来た事で、なんとか走れるようになりました。

晴天に恵まれた六月三日、その日がやって来ました。緊張と不安の思いで私が走る南コースの最後の中継点で待つ事二時間、まわりには、私より十才いや二十才ぐらいは、若い人達ばかり、ユニホーム姿は、かっこうよくバツチり決り、自信まんまんの顔。「こわいな」と思ってたが、いやいや弱気ではだめ今日の為に頑張って練習したんや力強く走ろうと思ひ直し、アップに入り体を動かし気合を入れる。「おばちゃん頑張ってたな」ともう走り

終った小学生の女の子が励ましに来てくれた。突然「由良が一位だ」との知らせを聞く。二位との差はどれくらいだろうと、又不安な思い「一位由良地区ゼツケン六、」スタートラインへ」と審判の声、胸がドキドキ高なり体に力が入る。二位との差は、一分以上あるからマイペースで走れとの指示、やがて小学生ランナーの坂下君の姿が見えて来た真赤な顔でけんめいに走って来た、仲間の手から手へと受け継がれてきた赤いタスキをすっかり肩にかかけ走り始めた。沿道には沢山の人が声援をおくってくれた。走っている間胸の中は、とにかく完走し仲間が生みだしてくれた一位を最後まで守らねばとの思いでいっぱいだった。「さあボチボチスピードアップや」と聞きなれた声が入った。もう走り終った津田さんの声、又少し走ると「手をふれ手をふれ」と声がかかる意識的に振る。アスファルトの熱気が体にこたえる。息苦しくなってきた。

うしろから足音が聞こえて来るような気がしてならない。「さあゴールまで一直線や、明日から練習せんでもええ、今日が最後や頑張って走れ」と大きな声が聞こえた。自信のない私にはこの津田さんの声がとても心強かった。やがて、ゴール近くになりバンバンとピストルがなった、あとわずかに残っているエネルギーを目ざめさせてくれた。くたばっていた手足がひきしまり、最後の五十米ほどの距離を精一ぱいの力で走り、大きく手を上げて白いテープを切った。

婦人会の人、友達皆なが拍手で迎えてくれた。完走出来た事がとても嬉しく、この年今になってすばらしい経験を見せて戴きました。皆なが同じ目的に向ってつらい練習に耐えて得られたこの感動は、一生忘れられない良

い思い出になりました。これからもずっとこの大会は続けられると思えますので、若い人達の自主的な、参加を望みます。最後に私に指導して下さった方達とあなたかいい声援をおくって下さった皆様に心よりお礼を申し上げます。

『どうも有難うございました。』

終り

私の趣味

上石浦 野村 孝行

私の趣味はスポーツ、その他何でも興味をもち、首を突っ込む質で有りまして、浅く広くいろいろと嗜んで来ました。年齢等と共に変わって、生活環境、成育により運動神経・体力・年齢等と共に変わって、現在では幼少の時代、海・川に恵まれた自然の中で父に日曜日毎に八ヶ野釣りに、キヌ釣り・奈具海岸での釣りと連れて行ってもらった事をなつかしく思い出して、年齢等に余り影響されることもない魚釣りを楽しんでおります。魚釣りにも、川釣り・船釣り・溪流釣り・磯釣り等、その他いろいろとあります。魚の種類もいろいろです。川釣りには川釣りとそれぞれ特有の楽しみはありますが、私の楽しみは、磯釣り、特にフカセ釣りのグレを少し本格的に楽しんでおります。磯釣りのフカセ釣りの楽しみは日常の慌ただしい生活、雑

踏の中から離れ、見渡す限り雄大な海、青い空、岩に打ち寄せる波の音。壮大な岩。大自然の中で何事も忘れて釣り一筋に竿をたれ、海面に浮かぶウキに全神経を集中し、今にもウキが海中に引き込まれる瞬間を今か今かと期待している時の期待感と、その瞬間に海面より海中に引き摺り込まれるように入っていくウキの様子は”食た”と心が弾み、タイミング良く引っぱり、ゴツンと合わせた瞬間の手ごたえ、竿先から手先に身体にと伝ってくる感触は言葉ではいい表すことの出来ない快感と喜びです。又、死にもものぐるいで引き込み、海中に見え隠れする魚との格闘を身体全体に感じながら一点に集中し、やっと岩場に釣り上げ”釣った”という満足感と嬉しさ、爽やかさは忘れる事が出来ません。

今までの成果は余り自慢にはなりません、安全第一で無理をせず、良く釣れる場所には行っていませんが、磯のグレ釣りでは最高 三十一センチ 四百十グラム 数量七十四匹です。ウキも一日中ジツトしたまま引き込まず、ボーズの日が続くこともあります、日常生活から離れ、岩の上でのんびり昼寝したり、おにぎりをバクつき、釣りのみならずストレス解消をしております。また、釣り上げた新鮮なグレを自慢しながら、大・中・小と選り分け、刺身・煮付・塩焼・フライと大きさにより調理して家族を喜ばし、私も酒をチビリ・チビりと呑む事も楽しみの一つであります。

釣りは短気な人は向かず、気の長い人に向くとよくいわれますが、私は大海で何時餌に食いつくかわからない魚を待っているという事は気が長く辛抱がいつて、短気な人には待ってられないように思っています。

釣りは竿を出せばちよつとの油断もできないものです。目を離さず神経を常にウキ、竿先に集中しタイミング良く釣り上げるのです。気が短く食いつくのが、今か今かと短気に待って居るその積み重ねが他の人から見れば長くのんびりと竿を垂れて待っているように見えるのだと、私なりに思っています。

家族、友達、又 恋人等で釣りを楽しみ、自然に親しみながら、有意義な一日を過ごす事が出来ると信じております。皆さんも一度経験してみてくださいいかがですか。楽しいですよ。

川柳

(宮津番傘川柳会)

- ◎ ◎ 郷愁を鮭は一気にさかのぼる 大森美智子
- ◎ ◎ カンナの朱又残り火があふれ出す
- ◎ ◎ 息を呑む気分にならせてシヨ一終る 田村キヌエ
- ◎ ◎ 年毎に音なく老いが忍び寄る
- ◎ ◎ 大切な辞典裏打ち生きている 磯田 栄
- ◎ ◎ 風向きを気にしてネット母の髪
- ◎ ◎ 追憶のグラスの底にひとりいる 飯沢鳴窓
- ◎ ◎ 絡み合う糸は見せないシルエツト

健康いろはカルタ

四方 寿朗

ら、ラジオ体操一二三

動物とは動くものと書く。健康で暮すためには、各人の年齢や生活に合った運動が是非とも必要である。と言つても無理にゴルフなどする事はない。自転車に乗つていたのを歩くとか、遠回りして買い物に行くとか、わざわざでは無く毎日の生活の中に運動を取入れるように心掛けよう。

む、昔を捨て出直そう

区民運動会などで思わぬ怪我をするのは、昔のスポート選手に多い。大切なのは昔何が出来たではなく、今何が出来るかである。校長先生でも警察署長さんでも、引退したなら過去の栄光を捨て、新しい人生に一から出直すぐらいの心構えが欲しい。人間死ぬまで何かの現役でいたい。

う、浮世の風よ吹かば吹け

ままならぬ事ばかり多いのがこの世の定め他人の苦しみは分らないだけ。広い視野で世間を眺め、徒に過去を悔まず、残されたかけがいの無い自分の人生を、精一杯生きよう。

由良 歴史と文化財 (二)

山椒大夫伝説の周辺 その六

前回には、ムラを含んだ地域が戦乱にまきこまれたとき、ムラ人は、山中の小屋に難を避ける事があつた筈だと書きました。そのとき、その根拠については触れませんでした。しかし、それには、一つの話があるのです。由良の山椒大夫伝説の中に「隠れ谷」の話があるので。山椒大夫伝説の中では、厨子王が山椒大夫の屋敷を抜け出して、一旦、身を隠した所として語られているのです。この話は、説経節「さんせう大夫」の中には語られてはいないので、これは、由良に特有の話であつたらうと思ひます。この話は、中世の農山村に見られた「小屋籠り」の習俗をもとにして、ムラ人の隠れた処を、厨子王のひそんだ所というような話に仕立て上げたと考えたのです。勿論、「小屋籠り」と言つても、其処には、必ずしも、小屋などの施設が作られていたとは限らないのです。何もない、全くの森の中、林の中であつたかも知れません。そういう、何も無い処であつたからこそ、かえつて見付かることもなかったのかも知れません。このように、伝説の語りの中には、古く行なわれた習俗や歴史を見出すことができるのです。そこで、もう一つ、「柴勧進」ということについて考えて見ることにします。七曲り八峠(長尾峠)の周辺に「バンバ」という地名があります。現在「馬場」の字があてられています。

私はこのバンバは、そういうものではないと思えます。それは、由良ヶ岳の神（又は仏）を祀る行道のために「バン（幡）」を立て、山を荘厳した処がバンバです。古来、山は、神聖な処であり、神の宿る処とされました。山の神聖は、常に守られていなければなりません。里人の、無闇に入り込むべき処ではありませんし、山人といえども、山に入るときには、神の許しを受け、神霊の科を受けました。この掟をやぶると、必ず、山の神霊の科を受けました。この山の神聖な区域を限る境を作ることで、ヒトが普段に生活する通俗の地域と俗世の人をとりまく諸関係の中に存在するヒトの社会と截然と隔離された神聖の地が「ヤマ」であったのです。このヤマの神が「柴神（柴折神）」であります。山に入る時には、この柴神に柴を手向けなければならなかったのです。柴を手向けて、はじめて山に入ることができたし、其処を通過することができたのです。神聖の境域には、それに見合う儀礼をつくす必要があったのです。山の霊と言っても、まだカミになつていない荒魂も浮遊していることも多かつたので、山の中で禍をうけないように注意しなければなりません。山の中で道に迷わないように、柴の枝を折って目印にしたのも、禍から免れる祈りという意味をもつていたと考えることができますでしょう。そして、山中を巡り修業する修験の人達も、そういう厳しい山の霊気を受けて修業を積むからこそ、ヒトにはマレな験力を身につけることが出来たのです。この、山の神である柴神に、柴を折って手向け、峠を越え、山道を入るといふ儀礼が、習俗として行われていたことが、山椒大夫伝説の中で、厨子王と山人との話として「柴勧進」といふ挿話が語られることになつたのではない

かと考えたのです。説経節「さんせう大夫」には、一日三荷の柴を作るところを命ぜられた厨子王が、馴れぬ仕事で苦しんでいるときに、通りがかつた山人が、「いざや、柴勧進をしてとらせん」と、柴を刈つて三荷を作り、厨子王に持たせてやったという話になっています。山椒大夫の話は、一面から見れば仏教説話でありますから、勧進という仏教用語が使われています。勧進というのは、佛や僧への供養のために、仏教的な善行をすることであり、柴勧進というのも、そのために、人に勧めて柴を集め、寺社に寄進し、造宮・修復その他の資に供することなのであります。処で、七曲り八峠には、「ベツシヨ」といふ地名があります。修業のための僧房・庵室が建てられていた、そういう所を言い、付近を通行し、山に入る人々が、柴神に手向ける際、その別所の僧房に柴を勧進することも、当然、行われていたと思えます。そのことが、厨子王に柴を勧進する話として紐立てられていたのであります。のちに、厨子王が山椒大夫の屋敷を抜け出した日は、正月十六日の初山の日であるというように語られています。この日には、厨子王が、山椒大夫の屋敷を抜け出したということには、大きな意味があると思わねばならないのです。それというのは、初山の日こそ、俗界のもろもろの関係を消滅させる所であるヤマに入るために、山の神を祭る日であり、厨子王にとつては、山椒大夫の山人という俗世の身分関係のシガラミを断ち切るという、そういう行動であつたということを明らかにしたものであります。その故にこそ、厨子王は、山の神の祝福を受けることが出来たし、更には、世に出ることを得させ

る大きな転機とすることができたのです。そして、山に入るといふことは、通俗の世のもろもろの關係から解放されることであるといふ意識は、近世になって商家などに定着するようになる「敷入り」の中にも見ることもできますし、その日は、精進といふ骨休めの日となりました。

平成二年六月 (小 谷)

【参考書】

新潮日本古典集成 室木弥太郎校注 「説経集」

平凡社刊 「ことばの文化史」中世1

角川版 「日本年中行事辞典」

岩波版 「佛教辞典」

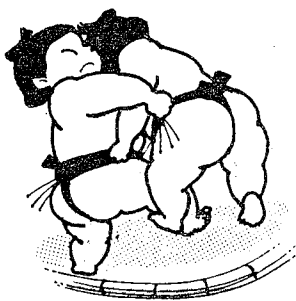
週刊朝日百科 「日本の歴史」十月十九日号

小学館版 「日本国語大辞典」第十卷

「由良角力取踊り」

「由良角力取踊り」が、どういふ由緒で出来上がったのか、私はまだ聞いていませんが、角力そのものは、鎮守の祭りの重要な行事として、奉納されてきました。由良でも、戦前は宮角力が行われていましたし、小供達の遊べる所では、地面に円を画くだけで行なえる遊び技として、何処でも広く行なわれていました。村相撲の上手や力自慢の若者は又、村の人気者でもあったのです。角力は、しかし、ただの力較べのためのものではなく、祭礼にあたって、神に奉納するのは、その年の豊凶、禍福をうらなう行事であつたからです。五穀豊穰・天下泰平の願いをこめて行なわれたものであつたのです。そして、千石船に乗つた由良の若者達は航海中、風待ちの時をすごすためにその所の若者達と角力をとつたことも多かつたし、その意味でも角力盛んに行なわれていたのです。角力が若衆のものであるからこそ、この「踊り歌」も男女の色模様を歌いこんだものになつたのでしよう。

(小谷)



「由良角力取踊り」

- 一、 角力にや負けても怪我さえなけりや晩は私が負けたげる。
- 一、 鯉の滝上りなんとゆて上る山を川にしよとゆて上る。
- 一、 親の意見となすびの花は千に一つの仇もない。
- 一、 親は樋竹子は樋の水親がやらゆく子はどこまでも。
- 一、 切れてバラバラ扇の要切れて心地がよいものか。
- 一、 生えたや生えたよ田に草がはえた早く取らんと人が笑う。
- 一、 角力にや投げられ女形（オヤマ）にやふられこんなつまらぬことはない。
- 一、 恋しこいしとなく蟬よりもなかぬ螢が身をこがす。
- 一、 歌えうたえと責めたてられて歌はでません汗がでる。
- 一、 姉が十九で妹二十（ハタチ）どこでさんによがちがつたやら。
- 一、 おまえ百までわしや九十九まで共に白髪が生えるまで。

